

AIの進化について

1. 対話型AI

今、対話型AIチャットGPTについて、いろんな方が意見を述べています。東大まで「人類はこの数ヶ月でもうすでにルビコン川を渡ってしまったのかもしれない」と対話型AIや作画などの生成系AIについて警鐘を鳴らしています。「超えてはならない一線」という事だが、人類の進化でいろんな物を超えてきたという歴史がある事を前提とするとAIの進化が人類の脅威になるというのも極論のように思います。現状ではAIは受け身の立場なので、指示する人間側の問題になるのでアウトプットを活用する方法論になると思います。方法論をルール化で規制すれば、判定の基準が出来るので善悪がハッキリするようになります。

しかし、作画系AIの能力が素晴らしく進化しており、恰も実際の人物がリアルに動作するように作画できるのでオンライン会議などでは本人かどうかを見極めるのは困難になっています。この延長線上にプライバシーの保護問題があるように考えられますので「超えてはならない一線」を超えているとも言えます。身近なところではNHKのニュースでAIが原稿を読み上げていますが、普通に聴いているとNHKのアナウンサーが読んでいるように聞こえます。これに作画系AIを組み合わせるとリアルに原稿を読んでいると錯覚するかも知れません。このようなAIの活用ならば、その時間を利用してアナウンサーの方々が次の準備が出来るので良い効果を発揮すると期待できますが、原稿までAIが制作するようになったら問題が別の次元に行くと思います。

思い起こせば、自動車も馬車に代わるものとして登場しましたが、量産効果で大衆化して多くの方が自動車を使用するようになりました。反面、戦車のように軍事利用に進化して戦争のあり方を大きく変えたのも事実です。排ガスの問題を起こし、温暖化の大きな要因になり脱炭素が叫ばれているのも事実です。

2. AIに変わる職種

公共サービスの分野は、会話型AIが最適な分野になります。自分の言葉で質問すると最適な回答が返って来るように自分のニュアンスを理解してソリューションに導いてくれると期待できます。公共関係なのでソリューションもルール化されているので誤答の確率は人間よりも低くなる可能性があります。これならスマホなどで利用できるのも、例えば、足の悪い人も便利なツールになりますが、窓口対応のワークが極端に軽減されるので雇用問題になりかねません。

同じような問題は民間のビジネスにも起こりえます。例えば、ネット通販の窓口がAIに変わると質問に対応して受注も行なえるようになります。今までのコールセンター業務が一変するのですが、利用する側は会話で行なえるのでキー操作レスで済むので便利になります。同じような事が保険で活用されています。また、駅のサービスも改札業務が自動化され、発券も自動化さらにホームドアの導入や監視カメラとの連携で駅員の数がドンドン減って行っています。これで、安全面が向上しているので良い方向で進んでいると言えます。

さらに、自動運転も進化しており、自動車だけでなく、いろんな移動体の操縦が自動化されています。位置情報を処理する速度が向上し、自然情報の変化に対応できるようにすれば、無人運転が可能になり安全な移動が可能になります。車体などに取り付けられたセンサーが突風などの自然情報や路面の変化も把握するようになると人が操縦するのと遜色ない状況になります。特に海上輸送は無人運転の船舶が可能になり易いのではないかと思います。移動体の密度や速度は海上輸送の場合、他の移動体よりも好条件と言えます。大型タンカーが無人運転で運行して、基地に着岸して無人で石油などを下ろすという構図も描けるのです。モーダルシフトで国内輸送が陸上のトラックから鉄道輸送や海上輸送にシフトして無人化になる未来図は可能性が高いと思います。このようにバラ色に思える未来図も機械なので保守メンテが必要になり、インフラに不具合が出ると社会的混乱に及ぶリスクを孕んでいます。

3. インフラのリスク分散

航空会社のサーバー機に異常が発生して欠航などの事態が発生しているように、自動化を可能にしているインフラが安定して稼働する事が大きな課題になります。当然、複数のサーバーが稼働していてもスイッチングの機能が正常に働かないとトラブルになってしまうので、システム的な課題が大きいのです。その上、電力や通信が正常である事がベースなので、自然災害時などの対応が課題になります。電線の地中化や無線化が考えられますが、初期の工事でも膨大な費用が嵩み、さらに維持メンテにも膨大な費用が嵩みます。

現状の通信インフラを見ても一度不具合が発生すると長時間使用不可になっていますので、予防的な保守メンテが大きな課題になります。公共サービスを対話型AIで行なえるようになって、電力や通信インフラが安定する事が大前提になります。通信インフラの処理能力を超えると遅延したりハングアップして故障する可能性があるので分散する能力が課題になります。このような高度な利用形態よりも現実的に限定したルートを縦列に移動する事が可能な、例えば、モーダルシフトで海上輸送や鉄道輸送のような場合、比較的リスクを軽減し易い面がありますが、位置情報や各種センサーが安全に機能する事が前提となります。

4. 人を幸せにする方向性

人類の科学技術の発展は軍事利用が絡んで来た歴史があります。ドローンも戦争に使われており遠隔操作でテレビゲーム感覚で対象物に攻撃をしかけて被害をもたらしています。このテレビゲーム感覚もAIが取って代わって無人でピンポイントに攻撃を行なうようになるのです。ある意味、原爆よりも恐ろしい兵器と言えます。他方、撮影の領域ではドローンが活躍しているのも事実です。災害時に衛星画像だけでは分からない局地の状況もドローンが低い空中から撮影できるので克明に情報収集できるのです。実際に電線の保守に使われており、異常や劣化の状況の早期発見に役立っています。

「諸刃の剣」と言いますが、どんな技術も使い方次第です。サービスなどの窓口業務がAIで無人化できれば、人の幸せに貢献すると期待できますが、一方、それに従事していた人の職が奪われるのです。先進国家では人口減少が深刻化していますが、それによる高齢者のウエートが高まり、その中で健康な高齢者へのサービスが無人化できれば社会的問題の一つを解決すると思います。例えば、給食や洗濯などが個別配送が可能になれば、介護施設に入居する人を減らす事が可能になります。特に、歩行可能な方たちには公民館などへ集合してサービスを受けるようになったら社会性も提供できるので健康寿命の延長につながると期待します。

しかし、深刻になるのは現役世代の2極化です。AIなどに職を奪われるので若い人の雇用問題が起こります。農業などへシフトと言っても農業も無人化・工業化の両面で進化しており、雇用の窓口とはなり得ないのです。このような事は製造でもサービスの面でも起こるので若い人の雇用問題が深刻になるのです。一部の人に富が集中して、大多数が低い賃金や生活保護の世話になる時代が来るように思えます。人口問題は戦争の火種になった歴史があり、紛争が全世界中で起こる可能性があります。この意味でも「超えてはならない一線」が技術の進歩で先進国や後進国に迫っていると言えます。

「技術は人を幸せにする」という大前提ですが、家電が進化して家事から解放してくれましたが、その反面、女性の社会進出が加速して家族の在り方も変わっています。個々の女性の幸せが、家族全体に広がると必ずしも幸せとは言えず、家庭崩壊という言葉が忍び寄ってきます。ミクロの総和がマクロの合理性に繋がるとは必ずしも言えないのです。AIの進化も同じ性質を持っています。サービスから解放されるミクロの喜びは社会の幸せにつながるとは必ずしも言えないのです。「社会の幸せ」という視点で「ルビコン川」の問題を見直したいと思います。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】